



こんにちは 和田あき子です



通行規制されている国道19号の対応と迂回路の県管理道路の対策について

和田：長野市小松原地籍で7月に発生した大規模な地滑りの対策工事の完了まで時間規制を伴う片側交互通行が行われているが、安全を確保しつつできるだけ早く24時間通行を確保できないか伺う。

建設部長：国は専門家の助言をもらいながら崩壊土砂防止策等の対策を進めており、規制緩和に向けては地滑り対策検討委員会で対策工事の進捗状況や国道への地滑りの影響について検討し、安全確認後24時間通行を含め規制緩和の判断をすることになる。県としては地域や関係市町村からの意見を国と情報共有し早期の規制緩和に向け取り組む。

和田：迂回路になっている県管理道路につい

て、普通車のすれ違いも厳しい狭隘部や見通しが悪い連続カーブの箇所など、地元の道路改良を求める期成同盟会等から長年要望があることを踏まえつつ、国道19号の通行止めという緊急事態の下で早急に対応が必要な道路改良は集中的に促進をすべきと思うがいかがか。

建設部長：今回の災害を受け、早急に対応できる局所的な道路拡幅や待避所設置の費用を補正予算に計上し、迂回路の安全対策を実施していく。計画的な道路改築に対しては引き続き地域の皆さんの意見を聞き、着実に改築を進めていく。

和田：交通の大動脈である国道19号は、長野市信州新町地籍および小松原地籍で、それぞれ原因も対策も工事も異なるが、いずれも本格的な工事を経て全面的に通行が可能になるまで2年以上要すると思われる。犀川と並走している19号は脆弱な地盤の箇所が多く、道路復旧は原形復旧でいいのかも併せて国に対策を求めているいただきたいがいかがか。

建設部長：国道19号は長野市から安曇野市の間は脆弱な地質が続いており、雨量による事前通行規制区間4か所など、たびたび災害が発生している。国では早期に交通を開放する観点から、原形復旧を基本に再度災害のないよう工法を検討し実施している。国道19号は地域を連結し、住民にとっても非常に重要な路線であることから、危険個所の解消が図られるよう、県としても機会をとらえ国に求めていく。



小松原地すべりと市道新橋飯森線現地調査(9月10日)

信州新町水篠橋付近現地調査(9月10日)



会計年度任用職員制度について

和田：会計年度任用職員は最長5年となっているが、相談窓口や福祉業務など、経験を積み、繰り返し研修を受け資格を有している専門性が高い職員を、5年を超えて同じ業務に携わることができるのか伺う。

総務部長：専門的な資格や経験、技能を要し長期間の任用が望ましい業務については、5年の任用期間終了後に一度公募による選考に合格した後は、再度5年間は公募によらない任用が可能。

和田：長野県は現在、会計年度任用職員が知事部局と教育委員会で3500名。共産党県議団は幾度となく、正規の職員が行政嘱託や臨時職員など非正規職員に置き換えられ、県行政が担う各分野の専門性が担保できるのかと問題を指摘してきた。専門業務対応職員は正規として採用すべきと思うがいかがか。

阿部知事：公務員制度上、常時勤務を要する職というのは、相当の期間任用される職員を付けるべき業務に従事する職かどうか、フル

タイム勤務とすべき標準的な業務量がある職かどうか、いずれの要件を満たす職とされ、今後ともこうした考え方を踏まえ適正な任用を行う。

知事答弁のように要件を満たし、専門性が高く、県業務をになっている実態から、引き続き正規職員とするよう求めていきたいと思えます。

危機管理建設委員として災害現地へ



橋台が傾き鉄道が不通に(辰野町・8月19日)



茅野市下馬沢川の現地調査(9月11日)

広報委員として議場説明



社会見学のお役に立てるように小学生に議場説明をしています

